

志慶真門郭

この郭の後門からは、急勾配の斜面に沿って下の志慶真川に行くことができ、この川で汲まれた水が城の用水のほとんどを賄っていました。1981年の発掘調査で、平坦面に建てられた4棟の建物の遺構が発見されました。明朝時代の陶器の破片も大量に見つかっており、数多くの高級品が日常的に使われていたことを示しています。実際のところ、今帰仁の発掘現場では使い捨てにしていたのではないかと思えるほど非常に多くの良質な輸入陶器が発見されており、当時の王国の経済力の高さと中国との盛んな交易を証明しています。志慶真城郭の建物付近では、矢じりなどの武器の部品も出土しており、建物が家臣の住居であったことを示唆しています。後門を防衛する戦略的な位置とりと、主要な郭との近さおよび行き来のしやすさから、志慶真城郭は王の側近の家臣が住んでいた場所であると考えられています。しかしながら、伝承によると、1416年に城が攻め落とされたのは、敵がこの門を通れたためだったといえます。